

# 乳幼児のこころと生活：子育てと子育て支援の科学

人間文化学部 人間関係学科 教授 竹下 秀子・准教授 上野 有理


研究分野：発達心理学・比較認知科学

☒ <http://www.shc.usp.ac.jp/hideko/>

子育て応援ラボ「うみかぜ」(<http://umikaze.sub.jp/>)を拠点として、胎児期から乳幼児期にかけての母子コミュニケーションの発達に関する実証的研究をおこなっています。また、発達・養育支援や保育の方法論の開発に寄与する研究の推進をめざし、子育てサークルや勉強会、保育士や教員を対象としたセミナーを主催しています。

これらの活動は出産・育児関連サービス業や生活デザイン分野への応用が可能です。以下に現在進行中の活動内容を紹介します。



 実験実施時の様子 (左から、ラボ訪問から実験終了まで)

## ■胎児期からの母子間コミュニケーションに関する研究

4次元超音波画像診断装置や心拍計をもちいて、胎児の聴覚の発達を調べています。とくに母親の声にたいする反応に注目し、胎児期からの母子間コミュニケーションについて検討しています。音楽を題材に基礎データを収集することで、妊娠・胎児期からの母子の音楽活動支援の開発を目指すことも可能です。また研究に参加いただいている妊産婦の方々に質問紙調査をおこない、妊産婦対象のサービス開発に役立つ資料を収集することもできます。



## ■積木つみやお絵かきの発達に関する研究

積木つみやお絵かきなど、物の操作の発達や人間に独特なイメージの発生について調べています。乳幼児向けの生活雑貨・おもちゃなどの開発に役立つ基礎データを収集することも可能です。



## ■食行動の発達に関する研究

どのような環境や状況で子どもはよく食べるのかを検討するための基礎データを収集しています。それらを活かし、食育プログラムの作成や評価をおこなうことも可能です。



## ■子育てサークルやセミナーの主催

子育てサークル「インファンクラブ」や、親子での音楽遊びの会、子育てに役立つ情報を共有するための「ミニ学習会」などを主催しています。参加者への子育て支援に関するニーズ調査もおこなっています。これらの活動をとおして子育て支援のニーズを発掘・分析し、乳幼児のための親子活動支援プログラムの開発に役立てることができます。また、保育士や教員など、子育て支援に関わる方々を対象としたセミナーも開催しています。こうした活動をモデルに、子育て支援者のための研修プログラムの作成と評価をおこなうことも可能です。

